

Technique and Expression in Traditional Japanese Painting

【たらしこみ】

コレクション展

はじめての 古美術鑑賞

— 絵画の技法と表現 —

根津美術館では、平成28年7月23日(土)から9月4日(日)まで、「はじめての古美術鑑賞 — 絵画の技法と表現 —」を開催いたします。

近年、仏像や刀剣に夢中な若い女性たちが大きな話題となり、琳派や若冲の展覧会が人気を集めるなど、日本の古美術に対する関心が高まりつつあります。一方であいかわらず、日本美術は西洋美術にくらべて見どころがわかりにくい、あるいはなんとなく敷居が高い、という声も少なくありません。和室や床の間が消え、そこに飾られてきた日本の古美術が現代の私たちの暮らしには縁遠い存在となったからなのでしょう。また、日本の古美術の展覧会で目にする解説に見慣れない専門用語が多い、といったこともその原因のひとつかもしれません。でも逆に、その専門用語を少しでも覚えてしまえば、見方や興味が広がり、日本の古美術の面白さやすばらしさをさらに深く体感できるようになるのです。

この展覧会では日本の古美術のうち絵画の技法やその用語を、とくに墨と金の使用法を中心に、当館コレクションの作品を例にとりてやさしく解説いたします。皆様の鑑賞がより深まれば幸いです。



2016年 7月23日(土) — 9月4日(日)

根津美術館
NEZUMUSEUM



はじめての 古美術鑑賞

— 絵画の技法と表現 —

展示室 1・2

コレクション展



四季草花図屏風(部分)
喜多川相説筆
6曲1双 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

【たらしこみ】

滲みの効果を意識的に使用した技法。俵屋宗達をはじめ琳派の画家たちが好んで用いた。墨や絵の具が乾ききらないうちに、より多く水を含んだ墨や絵の具を加えて複雑な滲みを生じさせる。



山水図(部分) 雲溪永怡筆 沢庵宗彭賛
1幅 紙本墨画
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

【澆墨】

墨をたっぷりつけて、それをはねちらかすように、大胆な筆さばきで一気に形状を表現する技法。墨色の濃淡の変化で立体感を表す。

【截金】

金箔や銀箔を、細い線や三角・四角・菱形などに切つて、絵画や彫刻に貼り付ける技法。仏の着衣や背景の文様、仏身から発せられる光などの表現に用いられた。繊細な文様の表現には高度な技術を要する。



重要文化財 愛染曼荼羅(部分)
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

【外暈】

外隈とも書く。雪や光など、白色あるいは明るい色のものを描くときに、紙の地色を生かしてその外側を墨や暗色でぼかし、暈取つて表す技法。



富嶽図 仲安真康筆
1幅 紙本墨画
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

【白描】

墨の線のみで描いた絵。水墨画に見られる滲みやぼかしなどは用いない。密教図像、あるいは絵巻などにも用いられた。



重要美術品 毘沙門天図像
1幅 紙本墨画淡彩
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

【金雲】
きんうん
金箔を貼って雲や霞をかたどったもの。場面の区切りや省略のために用いるが、装飾的な効果も高い。源氏雲ともよばれる。



らくちゅうらくがいずびょうぶ
洛中洛外図屏風(部分)
8曲1双 紙本金地着色

日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 福島静子氏寄贈

同時開催

書く 楽しむ

展示室5



蓋の表に大太鼓を大胆に配し、内側には文様のなかに和歌の文字を散らした硯箱。室町時代、文学趣味を映した蒔絵硯箱の名品。

重要文化財 嵯峨山蒔絵硯箱
1合 木胎漆塗
日本・室町時代 15-16世紀
根津美術館蔵

墨や硯、筆などの文房具から、蒔絵の硯箱まで、書く楽しみを深め、机上の飾りとしても好まれた作品の数々を展示いたします。



漆を塗り重ねて文様を浮彫りした彫漆の筆管と筆帽。贅沢な装飾をほどこした筆は、実用のほか机上を飾るものとしても好まれた。

ついでくぐりもんふで づいしゆじんづつもんふで
堆黒屈輪文筆(左) 堆朱人物文筆(右)
各1本 木胎漆塗
中国・明時代 16-17世紀
根津美術館蔵 卯里欣侍氏寄贈

根津青山の 軽井沢の茶

展示室6



梅花文が施され、口が大きく開いた平茶碗を2碗重ねたもの。根津はこの夏向きの茶碗を軽井沢での茶事で用いることを好んだ。

えごうらいうめぼちもんちやわん
絵高麗梅鉢文茶碗
2口 施釉陶器
中国・明時代 15-16世紀
根津美術館蔵

当館の基礎となるコレクションを蒐集した根津青山(初代根津嘉一郎)は、夏に軽井沢の別邸に友人を招いてしばしば茶事を催しました。当時の取合せを再現します。



腰の部分に桜垣文が施された瓢箪形の茶入。瓢箪を叩いて念仏踊りをしたという平安時代の僧・空也上人にちなんで銘が付けられた。

せとひょうたんちやいれ くらや
瀬戸瓢箪茶入 銘 空也
1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

関連プログラム

講演会 「煌めく絵画 ―日本の金箔技法―」
日時 8月20日(土) 午後2時～3時30分
講師 並木秀俊氏
(東京藝術大学特任研究員 / 日本画家・截金師)
会場 根津美術館 講堂 (定員130名)

〈申込方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1講演会1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド
レクチャー 「はじめての古美術鑑賞 ―絵画の技法と表現―」
8月5日(金)、8月12日(金)
「書きたのしみ ―文房具と硯箱―」
8月26日(金)
各回とも午後1時30分より45分間程度
根津美術館 講堂 (定員130名)

- * 展示内容について学芸員がスライドを用いて解説します。
- * 事前申し込みは不要。開始の15分前より開場します。

※各プログラムの聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別催事 「茶杓をけずってみよう」
日時 8月27日(土) 午前10時30分～、午後2時00分～
講師 池田泰輔氏 (竹芸家・竹楽会講師)

※詳細は決まり次第当館HPまたは館内にて掲出いたします。

次回展



緑釉貼花文大壺 中国・北齊～隋時代 6世紀
根津美術館蔵



粉彩百鹿尊壺 中国・清時代 乾隆年間(1736-95)
根津美術館蔵

開催概要

コレクション展
「はじめての古美術鑑賞 ―絵画の技法と表現―」
主催 根津美術館
開催期間 2016年7月23日(土)～9月4日(日)
開館時間 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
休館日 毎週月曜日
入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
前売券 一般900円 学生600円
2016年5月26日(木)～7月10日(日)「鏡の魔力 / 若き日の雪舟」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)

コレクション展 中国陶磁勉強会

2016年

9月15日(木)～10月23日(日)

南宋の青磁の優品に加えて、隋・唐そして清朝の作品で中国陶磁を楽しく学びましょう。

リリース・広報のお問合せ

担当： 所、村岡、羽田 Tel. 03-3400-2538 (直) Fax. 03-3400-2436 E-mail. press@nezu-muse.or.jp